



on the

NORITAKE GREEN



ノリタケミュージアム企画展

「NORITAKE on the GREEN」

2018 9/4^{Tue} → 2019 9/1^{Sun}

時 間：10:00～17:00

場 所：ノリタケの森クラフトセンター内 ノリタケミュージアム3階

定休日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

入館料：クラフトセンター・ノリタケミュージアム共通

大 人……………500円

高校生……………300円(団体割引有)

中学生以下の方……………無料

65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方

証明書のご提示により……………無料

ノリタケの森 ノリタケミュージアム

名古屋市西区則武新町3-1-36 TEL052-561-7114 FAX052-561-7276

2018 9/4^{Tue} — 2019 9/1^{Sun} NORITAKE on the GREEN ノリタケ オン ザ グリーン

日本で初めて、神戸・六甲山にゴルフ場ができたのは1901年のこと。この頃はまだ外国人中心のスポーツだった。そんな中、日米を行き来する機会の多い森村組(※1)の幹部たちは、日本人としては早い時期にゴルフに触れていた。

森村組はゴルフと縁が深く、森村市左衛門(※2)が創立の支援を行った日本女子大では、1904年の体育大会の競技でゴルフが行われている。また市左衛門の息子・開作は1913年に当時の各界指導者らが集まり設立した、国内初の日本人によるゴルフクラブ「東京ゴルフ倶楽部」の中心的人物であった。1922年に日本人用として整備が始まった程ヶ谷カントリー倶楽部設立の際には、その資金集めに大きく貢献、日本のゴルフの黎明期を切り開いたひとりでもある。当時ゴルフは上流社会のスポーツとして流行し始めていた。森村組の輸出品にも、戦前からゴルフをモチーフにした陶磁器が存在している。

1957年の中村寅吉選手のカナダ・カップ(現・ワールドカップオブゴルフ)獲得を機に日本でゴルフブームが起き各所に練習場ができたが、パブリック・コースはまだ少なく会員制で費用がかかるため、一般には贅沢な遊びと思われていた。1960年代後半になると国内のゴルフ場建設が進み、大衆のスポーツになっていく。やがて、レジャーへの関心の高まりや、ビジネスツールとしての利用により、競技人口は増加。このブームに合わせ、ノリタケでは陶磁器やクリスタル製のトロフィーをはじめ、フィギュアリン、飾皿など多くの関連商品を製造した。その後、競技人口がピークを迎えた90年代には、トーナメントに協賛し副賞商品として製品の提供を行うこともあった。

今回はゴルフフィギュアリンやゴルフ場を描いた記念の飾皿、トロフィー、灰皿など、約50点を展示する。

※1 森村組は1876年創業の商社。現在の森村商事(株)。当初は日本の雑貨を扱っていたが、後に陶磁器を主力商品とした。輸出用の洋食器製造のために、1904年「日本陶器(現:ノリタケカンパニー)」を設立する。

※2 森村組の創業者。外貨を得て国益を図ることを目的に森村組を創業した。



ポーンチャイナ製フィギュアリン(左:1973年頃 右:1956年)



トロフィー クリスタル製
(左:1975年頃 右:1970年頃)



トロフィー ポーンチャイナ製
(左:1976年 右:1975年頃)



ゴルフ場クラブハウス画 飾皿 画:井上武(1950~60年代)



角灰皿(1940~1943年) 灰皿(1954~1966年) マグカップ(1989年)



デザイナー・寺埜修三によるデザイン画と飾皿(1958年)

交通案内

地下鉄東山線「亀島」駅下車2番出口より徒歩5分
JR名古屋駅～徒歩15分、名鉄栄生駅～徒歩15分
駐車場:有り(有料)

